

高島成侑君を偲んで

当時、教養部から工学部へ進学という節目があった。学科をどこにするかについては人気に差があり、建築は上位のほうだったと記憶している。

高度成長初期でもあり、団塊の世代という割には就職には恵まれていた。そんな中、建築史講座には6名もの学生が配属となった。かなりの昔なので記憶が定かではないが、研究室では先生方にいろいろとご馳走になったり、面倒をおかけしたことが思い出される。

学部学生の頃はキャンプや発掘なども楽しんだが、現地調査などはうれしい思い出である。高島君は学部卒業後、研究室の助手を2年間勤められ、後輩の指導をなされていた。その後修士課程に進まれた。

修士課程終了後、大分工業大学を経て郷里八戸に戻り、現八戸工業大学建築学科新設の実務で活躍し、自らも教官として研究教育の先頭に立った。

専門の建築史の分野では北東北の権威として八戸城の建築、浪岡城・根城・三内丸山などの遺跡、社寺建築、民家など広範な調査に貢献した。

電話による突然の訪問はいつも受話器を持つ腕が痛くなるほど長くなったが、彼の建築史に立ち向かう真摯な姿勢と研究が好きで堪らんとするオーラによって、高尚な充実感とともに心地よいほのぼのとした気分させられた。

大切な相談相手を失った寂しさは一通りではない。

これまでありがとう。ご苦労様でした。

ご冥福をお祈りいたします。

2011年11月4日

(15回生 阿部和彦 鈴木隆司)